

文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究 (①企01-14-4/5)

目 的

本他機関との連携を図り、文化財の研究情報について、効果的に発信していくための手法を研究・開発し、文化財に関する研究情報の蓄積を行うとともに、公開・活用のための手法等について総合的に研究する。また、東京文化財研究所の全所的アーカイブズの構築を推進する。

成 果

1. 一昨年度、試行版として創刊号から50号までの一般公開を行った「東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』」について、明治期の残りすべての分のデータ処理を進め90号まで公開した。
2. 明治から大正期に刊行された美術雑誌『日本美術画報』初編～五編を公開した。また売立目録のデジタル化作業について、東京美術倶楽部と協議を進めた。
3. 「東京文化財研究所刊行物アーカイブシステム」に各種図書情報を移行し、各部署が所蔵する図書情報の一元化と一体運用のための準備を進めた。また、誌面のデジタル化とデータ処理についても作業を継続して進めている。
4. アーカイブズを主題とする各種研究会を開催し、アーカイブズのあり方について検討した。

報告

- ・津田徹英・丸川雄三・中村佳史・吉崎真弓・橘川英規「研究ノート ウェブ版『みづゑ』の研究—美術史料のデジタル公開と美術アーカイブズへの展望—」『美術研究』414号 東京文化財研究所 pp.1-18 15.1
- ・加治屋健司・上崎千・橘川英規「研究ノート アート・アーカイブの諸相」(橘川英規「はじめに」、加治屋健司「美術アーカイブのなかの美術史」、上崎千「アーカイブと前衛—表現の非永続性 ephemeralityと資料体」、橘川英規「中村宏氏作成ノートに残された記録と資料—観光芸術研究所、東京芸術柱展を中心に」、加治屋・上崎・橘川「ディスカッション」)『美術研究』415号 東京文化財研究所 pp.43-66 15.3

発表

- ・皿井舞「文化財アーカイブズ構築の取り組み」東京文化財研究所総合研究会 東京文化財研究所セミナー室 15.1.13

研究組織

- 田中淳、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、小林達朗、皿井舞、安永拓世、城野誠治、河合大介、橘川英規、福永八朗 (以上、企画情報部)、飯島満* (無形文化遺産部)、佐野千絵*、早川泰弘 (以上、保存修復科学センター)、山内和也、加藤雅人 (以上、文化遺産国際協力センター)、高砂健介*2、平出秀文*3 (研究支援推進部)、津村宏臣、中村佳史、吉崎真弓、丸川雄三 (以上、客員研究員)

*企画情報部併任、*2 6月30日まで、*3 7月1日から



『日本美術画報』トップページ